

最新の社会心理学的知見を取り入れたリスク・コミュニケーター研修の参加報告

共通機器部門 放射線管理技術班

宗岡 亜依

1. はじめに（目的等）

本研修は福島第一原子力発電所事故を踏まえて拡大された原子力災害対策重点区域の地域住民等と関わる者やこれから関わる者を対象にリスク・コミュニケーションを実施する能力を備えた人材の育成を目的として開催されたものである。放射線施設で災害が起きた際の対応方法を学ぶために本研修に参加した。

2. 期間・場所

期間：令和元年 11 月 22 日

場所：東京富山会館ビル（東京都文京区）

3. 参加者等

参加人数：電力会社・研究機関等から 27 名

4. 研修内容

原子力安全技術センターの職員によるイントロダクションに続いて次の講義が行われた。講義 1 低線量放射線被ばくと健康影響について（放射線医学総合研究所 飯塚大輔先生）、講義 2 リスク・コミュニケーションの実際（東京理科大学 堀口逸子先生）、講義 3 ラポールの形成法とリスク・コミュニケーション（筑波大学 大塚泰正先生）

5. まとめと感想

講義 1 では放射線健康影響の基礎や放射線疫学の基礎と最新のトピック等の放射線生物学をもとにした話が行われた。講義 2 はリスク認知とリスク・コミュニケーションの基礎について学んだ。カルテットゲームを通してコミュニケーション方法について理解を深めた。講義 3 では他者とラポールを形成するための話の聴き方について教わった。その後 3 人でグループを作り、話し手・聴き手・オブザーバーに分かれて実践を行い、上手な傾聴の仕方を話し合った。

講義は全て興味深い内容であった。被災者と対話をする際にはラポールを築くことが重要であるとわかった。話を聴く際には単純に相手の発した言葉のみを捉えるのではなくおかれた背景や状況についても慮る必要があると感じた。

私の業務は本研修の趣旨とは異なるがその技法や考え方は役立てることができる。放射線施設で災害があった際には教わった内容を実践できるようにしたい。